

一般社団法人



日本航空宇宙学会

THE JAPAN SOCIETY FOR AERONAUTICAL
AND SPACE SCIENCES

ご案内

科学技術の先導分野として、航空宇宙工学の一層の進展が期待されています。わが国の航空宇宙業界も、戦後 60 数年を経て、ようやく追従から脱けて独自の道を歩み出したところです。

このときにあたり、当学会は学会活動を通じて積極的に国際交流や国内の他学会との協力を進め、また学会誌の充実を計っています。

航空宇宙工学という広い分野で、最先端の情報源をキャッチするのは難しいことです。しかし当学会には 15 の専門別に権威ある委員会があり、講演会や学会誌のために重要な題目の選別をしています。

一般社団法人 日本航空宇宙学会

(昭和 9 年 5 月 1 日設立)

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4 丁目 1 番 21 号
近三ビルディング 4 階
電話 (03) 6262-5313
FAX (03) 6262-5314
URL <http://www.jsass.or.jp>

学会の概要

I 学会の目的と沿革

日本航空宇宙学会は、航空宇宙に関する学理および応用の研究についての発表および連絡、知識の交換、情報の提供等を行う場となることにより、航空宇宙に関する研究の進歩普及を図り、わが国における学術の発展に寄与することを目的としています。

当学会の前身は、日本航空学会ですが、つぎのような変遷を経て、今日に至りました。

昭和9年5月	日本航空学会設立
18年12月	社団法人として登記
21年1月	終戦により解散
21年2月	財団法人日本科学文化協会に一切の権利義務を継承
22年3月	(財)日本科学文化協会は(財)日本応用力学会と改称
28年6月	航空再開により、(財)日本応用力学会は(財)日本航空学会に改称
43年7月	(財)日本航空学会は(財)日本航空宇宙学会と改称
45年1月	(財)日本航空宇宙学会を解散し、社団法人日本航空宇宙学会に改組
平成24年3月	一般社団法人 日本航空宇宙学会への移行許可を受ける

当学会は14ヵ国31の航空宇宙関連学会と協力関係にあり、なかでもInternational Committee on Aeronautical Fatigue, International Council of the Aeronautical Sciences, International Union of Theoretical and Applied Mechanics. の日本連絡代表ないしは日本連絡機関として活動しています。

さらにまた、International Symposium on Space Technology and Science を、隔年開催するなど、国際的にも有用な存在となっています。

II 学会の活動

1. 学会誌、論文集、欧文論文集及びオンラインジャーナルの発行(会員は年会費に含む)

「日本航空宇宙学会誌」(月間)「日本航空宇宙学会論文集」(隔月)の主な記事は、会員の最近の研究論文、技術に関する報告や、各種のテーマをえらんで執筆を依頼した講座、解説、および学会の行事、その他連絡事項をお知らせする会告などで構成されています。

「欧文論文集」(隔月)は会員の投稿による原著論文を欧文で発表するもので、世界各国に配布されています。また、論文の成果発表と発信が短期間で行なえるよう和文及び欧文のオンラインジャーナルを発行しています。

2. 講演会、シンポジウム、見学会の開催

「年会講演会(4月)」, 「流体力学講演会/航空宇宙数値シミュレーション技術シンポジウム(6月)」, 「構造強度に関する講演会(7月)」, 「飛行機シンポジウム(10月)」, 「宇宙科学技術連合講演会(10月)」, 「スカイスポーツシンポジウム(12月)」 「航空原動機・宇宙推進講演会(3月)」, など毎年約20回の各種の講演会(研究発表会), シンポジウム, 見学会を主催し、会員の研究発表や交歓の場になっています。

3. 調査研究の受託

航空宇宙技術に関する各種の調査研究, 例えば宇宙航空研究開発機構(JAXA)の「航空機構造の疲労・信頼性に関する国内外の研究調査」などの委託を受けています。

4. 学会賞

論文賞，技術賞，奨励賞の三賞を設け，年1回表彰を行っています。

5. 学生賞

航空宇宙関連学科のある大学から推薦された学生に年1回表彰を行っています。（平成13年度より）

6. 科学技術奨励金等の受賞候補の推薦

毎年多くの団体から科学技術に関する表彰候補者推薦の依頼をうけ，会員の中から適任者を推薦しています。

Ⅲ 学会の組織

1. 委員会

理事会の傘下に，企画委員会，編集委員会などの委員会があり，学会全体の活動について，企画や実務体の活動について，企画や実務を分担しています。

2. 部門委員会

専門分野により，下記の15の部門に分かれ，講演会・講習会・見学会の企画や運営をしています。

*空気力学部門委員会，構造部門委員会，材料部門委員会，機器・電子情報システム部門委員会，飛行力学部門委員会，生産技術部門委員会，原動機・推進部門委員会

*航空機設計部門委員会，特殊航空機部門委員会，回転翼航空機部門委員会，航空機運航・整備部門委員会，航空交通管理部門委員会

*宇宙航行部門委員会，宇宙システム・技術部門委員会，宇宙利用部門委員会

3. 臨時委員会

海外の関連学会との連絡・協力を行うことを目的として，海外協力委員会，国際自動制御連盟航空宇宙技術連絡委員会，ISABE 国際学会連絡委員会，IAF 連絡委員会，ISTS 委員会および ICAS 連絡委員会が組織され活発な活動を続けています。また，当学会の事業を円滑に実施していくために，受託委員会，広報委員会，大学教育検討委員会，航空宇宙技術リエゾン委員会，会員委員会，航空宇宙工学便覧編集委員会，航空ビジョン委員会，人材育成検討委員会，AP1SAT 連絡・実行委員会，対震災航空宇宙科学技術検討委員会，レーザー宇宙航空応用検討委員会が組織され活動しています。

4. 支部

地域的には，中部支部，関西支部，西部支部，北部支部に分かれ，各支部ごとの講演会や懇親会も開催しています。

Ⅳ 入会の手続き

1. 会員の種類と資格

正会員 航空または宇宙に関する学識・技能または経験を有するもの

学生会員 存学中のもの

賛助会員 本会の事業を賛助する個人または団体

名誉会員 本会に対して特に功労のあったもので，総会の議決により推薦される

2. 入会の手続きと会費納入方法

入会申込書に所定の事項を記入し、ご送付願いただくか、または、学会 HP 上のオンライン入会システム上で手続きしてください。

理事会で入会が承認されますと承認書と会費納入のご案内をお送りしますので、入会金と入会された月から6月までの初回会費を納入していただきます。

7月から翌年6月までの年会費は、銀行口座からの自動振替又はクレジットカード又はコンビニエンスストアによって納めていただきます。

○銀行口座自動振替の場合…「預金口座振替依頼書」記入提出 利用できる金融機関・利用できない金融機関は次のとおりです。

利用できる金融機関

全国都市銀行 全園地方銀行 全国信託銀行 長期信用銀行

全国第二地方銀行 全国信用金庫 全国労働金庫 全国農業共同組合

利用できない金融機関

郵便局 信用組合 一部の農協 商工中金 農林中金 外国銀行

○クレジットカード払いの場合…学会HP、会員向けページにてお支払。

また、公費負担等の特殊な事情のため請求書が必要な場合は事務局にお申し出下さい。

3. 会費および入会金

会員種別	入会金	会費年額
正会員	1,000 円	10,000 円
学生会員	無料	4,000 円
賛助会員(個人)	1,000 円	15,000 円
賛助会員(団体)	1,000 円	60,000 円/1口

(別表) 初回会費

入会月	正会員	学生会員	賛助会員(個人)	賛助会員(団体)
7月(12ヶ月)	10,000円	4,000円	15,000円	60,000円
8月(11ヶ月)	9,200円	3,600円	13,500円	55,000円
9月(10ヶ月)	8,300円	3,300円	12,500円	50,000円
10月(9ヶ月)	7,500円	3,000円	11,250円	45,000円
11月(8ヶ月)	6,600円	2,600円	10,000円	40,000円
12月(7ヶ月)	5,800円	2,300円	8,750円	35,000円
1月(6ヶ月)	5,000円	2,000円	7,500円	30,000円
2月(5ヶ月)	4,200円	1,600円	6,250円	25,000円
3月(4ヶ月)	3,300円	1,300円	5,000円	20,000円
4月(3ヶ月)	2,500円	1,000円	3,750円	15,000円
5月(2ヶ月)	1,600円	600円	2,500円	10,000円
6月(1ヶ月)	800円	300円	1,250円	5,000円

4. 一括取扱いについて

国の機関・大学・会社などで会員が多数おられる所では、幹事を決めて、学会事務の中継や学会誌の配布などのお世話を願っています。